



南の目指す生涯学習社会

～みんなが元気に みんなが幸せに～

冬休みの 市町村事業

横手市冬休み子ども教室・角館キッズ学びい教室

横手市教育委員会は、市内小学生を対象に「冬休み子ども教室(5日間)」を開催しました。この教室は、地域総掛かりで子どもたちの成長を支えることを目的に、市内の各公民館や生涯学習センターなど16施設を利用して行ったもので、316人の子どもたちが参加しました。

各教室では、地域のマンパワーを活用しながら様々な体験プログラムが提供され、子どもたちはその魅力あるメニューを存分に楽しみました。

この中で「横手南子ども教室」では、市内の英会話教室で英語を指導している和泉絵美里さんを講師に迎え、「英語であそぼう」をテーマに英語ゲームを体験しました。子どもたちは、和泉さんを食い入るように見つめ、英語によるコミュニケーションに目を輝かせていました。



【英語ゲームを楽しむ小学生】



【学習支援を行う高校生】

一方、仙北市では、「楽しい学習オタスケマンの会」が主催する「角館キッズ学びい教室」が行われました。この取組は今年で19年目を迎え、実施回数も36回を数える継続的な取組です。この冬休みも、約70名の小学生が、教員OBや現職教員、高校生等からの支援を受けて真剣に学習に取り組んでいました。高校生の支援員は、「自分の進路を考える上でよい刺激をもらった」と話していました。

子どもたちの安全・安心な居場所になるだけでなく、高校生にとって貴重な体験の場にもなっている「キッズ学びい教室」には、地域ぐるみで子どもを育む温かい時間が流れていました。

アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の協働 4

「よこてだいすき」で育む郷土愛

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

「協働」の体制づくりや「地域に開かれた教育課程」の実現に当たり、大きな可能性を感じさせる教材があります。それは、横手市教育委員会が市内小・中学生向けに刊行した郷土学習テキスト「よこてだいすき」です。

これは、合併前の旧市町村の枠を超えた市全体の多彩な魅力を知ってもらおうと、横手市教委が昨春、市内の小学1年から中学3年までの全児童生徒に配布したものです。

テキストは、A4版136ページのオールカラー。環境、伝統、文化、歴史の4分野から計48テーマを取り上げ、テーマごとに見開き2ページにまとめています。低学年でも内容をイメージできるようイラスト入りの「かるた」を載せたり、自身の成長とともに変化していく地域への思いを記録するページを設けたり、郷土愛を育むためのきめ細かな工夫が施されています。

また、関連書籍やインターネットサイトも紹介

するなど、テキストは大人にとっても読み応えのある充実した内容になっています。おそらく、このテキストを手にとって読まれる方は、自分の居住地以外の市内各地域の魅力について、理解を新たにすることでしょう。

横手市は、もともと子どもへの伝統文化継承にとっても熱心な地域で、横手市教委では現在「横手を学ぶ郷土学」事業を進めているところですが、市教委では、このテキストを大人も巻き込んだ郷土学習の盛り上がりにつなげ、内容の一層の充実を図りたいと話しています。

子どもたちは、「よこてだいすき」による郷土学習をとおして、確実に郷土への愛着や誇りを抱くことになるでしょう。そして、その取組を地域全体でサポートすることができれば、子どもたちの大きな励みとなるに違いありません。

横手スタイルともいえるべき「横手の郷土学」の動向から、しばらくの間目が離せません。